



## 「ふるさとの春の山こそなつかしき」

吉田絃二郎

吉田絃二郎は、佐賀県に生まれ、父親の事業の失敗により幼少期から佐世保に移り住んだ。早稲田大学在籍中軍隊に入営し、見習士官として対馬で過ごした。代表作『島の秋』は、この体験を基に描かれた。

また、戦後初代佐世保市長の中田正輔に依頼され、一九五二年、佐世保市歌改訂に関わった。佐世保市弓張岳の歌碑には次の歌が刻まれている。

ふるさとの春の山こそなつかしき

むさし野の雪に独りしあれば

これとよく似た歌に次の一首がある。

武蔵なる多摩の川原をあがゆけば

ふるさとに似し山を見るかな

母校早稲田大学で教鞭を執り、小説家、劇作家として活躍した氏の脳裏に去来するものは、懐かしいふるさとの山々であったことがうかがえる。